

## 西本願寺と東本願寺

もともとは一つの宗派だったのに、親子の対立によって分裂してしまった本願寺

京都の観光名所として有名な西本願寺と東本願寺はもともと本願寺という一つの寺院でした。

西本願寺も東本願寺も同じ浄土真宗の宗派ですが、正式な宗派名をお西(西本願寺)は「浄土真宗本願寺派」といい、お東(東本願寺)は「真宗大谷派」といいます。

ただ、浄土真宗は西、東だけではなく全部で10の派があります。

(浄土真宗本願寺派・真宗大谷派・真宗高田派・真宗佛光寺派・真宗興正派・真宗木辺派・真宗出雲路派・真宗誠照寺派・真宗三門徒派・真宗山元派)

親鸞聖人(しんらんしょうにん)を宗祖とし、親鸞聖人の廟堂(びょうどう=墓所)から発展したのが本願寺ですが、ある事情により分裂する事になります。

本願寺が東と西に分裂した原因は、石山合戦まで遡ります。

1570年から80年までの10年間、織田信長と石山本願寺が敵対したのが石山合戦です。全国各地の本願寺門徒が起こす一向一揆に信長は大変苦しめられました。

10年も費やしたこの戦いの為、信長は天下統一の機会を失ったとも言われています。

信長は、最後には天皇を仲裁にたて和議を求めた(実質は、信長の勝利)のですが、この時和議に応じるか抗戦するかで本願寺内の意見が分かれたのです。

第11世宗主の顕如(けんによ)と次男の准如(じゅんによ)は和議を受け入れようとしたのですが、長男の教如(きょうによ)は抗戦を主張し、両者は対立、ついには親子の関係を断つ事になり、顕如は和歌山の鷺森に移ります。

その後豊臣秀吉の治世になり、1591年、顕如は秀吉から七条堀川に土地の寄進を受け、御影堂と阿弥陀堂を建設、これが現在の西本願寺です。

一方、教如は本能寺の変で信長が亡くなると義絶を解かれ、本願寺を継承します。

しかし、石山合戦で自分に賛同した者を重用した為、本願寺内部に対立が起こります。

そして、秀吉の後押しもあり、弟の准如が正式に本願寺の12代宗主を継承することになったのです。

それでも本願寺内で力を持っていた教如は、徳川家康に接近し、1602年、七条烏丸に寺地の寄進を受けます。

これが真宗大谷派の始まりで、ここから教如の東本願寺と准如の西本願寺が分裂することになったのですが、これは家康の策略でもありました。

本願寺の一向一揆に苦しめられた信長を見てきて、家康は本願寺自体を分裂させることで両者の対立を密かに画策したのです。

分裂した組織は大抵争うことが多いからです。

そして、本願寺の立地関係から、西本願寺・東本願寺と呼ばれるようになったそうです。

もとは一つの寺院だったため、東西どちらも浄土真宗で宗教的な教義(教え)に違いはありませんが、細かい部分では異なる事もあります。

西本願寺と東本願寺の違いは仏具にも見られます。

一番分かりやすいのは花立て、香炉、蝋燭立などの仏具で、本願寺派は銅に漆塗りの宣徳製(せんとくせい)という黒っぽい色合いの物(右上)を使用しますが、大谷派では亀の背中に乗った鶴が口に蓮軸をくわえている鶴亀燭台という金色の物(右下)を使用します。



因みに当光明寺は西か東かお分かりですか？オモテに書いてありますよ。